

世界が注目する型抜きトップメーカー



坂本造機株式会社

モバイル製品に不可欠な「ハーフカット」技術

ラベル、フタ、タワシ……。金属以外のあらゆる製品に使われている「型抜き」の技術。坂本造機は、この型抜き技術を極める企業だ。単に型を抜くのではなく、携帯電話や次世代ゲーム機といった超小型電子機器のフィルムをミクロン単位で抜き切る型抜き機製造によって、世界の市場からニーズを集めている。

同社の「顔」とも言える技術は、2層3層に重ねられたフィルムの1層だけを切り抜く「ハーフカット（半抜き）。液晶やプラスチック等に使われる極薄フィルムを、100分の1mm単位の高さ調節によって上層部のみきれいにカットする技術だ。これに加え、CCDカメラによる位置決めシステム「APS（オート・ポジショニング・システム）」を開発。高い精度でフィルムシートの位置を合わせ、1分間に180回というスピードで正確に連続カットしていく型抜き機を作り上げている。

モバイル製品や薄型ディスプレイの大半には、フィルムが必ず使われる。このような商品が世界を席巻するいま、国内はもちろん、海外からも同社製品への受注が相次いでおり、精密型抜きのトップメーカーとして世界的に認知度を高めている。

世界で2000台の型抜き機が稼働

薄く、きれいに、速く。市場からますますこのニーズが突きつけられる中、同社が考案したCCDカメラによる位置決め技術は、数年前の開発当時には画期的なものだった。さらに、スピードを微妙に調整できるサーボモーターを搭載する等、同社の「精度への挑戦」は留まるどころを知らない。

「携帯電話のように、商品が小さくなればなるほど、フィルムの正確な型抜きが要求されます。ちょっとでも位置がずれたら使えませんからね」。CCDカメラの採用によって、不良品率ゼロに近い性能を実現しているという。

もともとは断裁機や打抜機のメーカーとして、包装材や車両シートなどを中心とした型抜き機を製造してきた。しかし時代の変化とともに、映像・通信といった弱電分野へと方向性を転換。液晶時代が到来し、フィルムの型抜きに厳しいまでの正確さ、美しさが求められるようになって以来、それに応える技術を率先して磨いてきたのが躍進につながった。

「世の中に役立つ機械を、というのが創業当時の理念。値段を

下げてまで機械を買ってもらおうとは思わず、ひたすら技術を高め、それをウリにすることが理念に沿うことだと思ってきました」と坂本進社長は語る。現在、世界で2000台もの同社製型抜き機が稼働しており、中国からの需要も右肩上がりだ。古くからの職人や社員を大事にし、技術を守り育てる姿勢が、高性能機器の開発を支えている。

今後は、太陽電池分野が有望市場になりそうだという。海外受注比率も年々高まり、同社のグローバル展開はさらに加速しそうだ。

主な事業内容

機用加工用
機（型抜き機）
製造・販売・販売
物の製作付帯
とそれに付帯
る研究・開発
製造・販売等



坂本 進さん
代表取締役社長

Company Profile

坂本造機株式会社

住所 / 〒594-1144
大阪府和泉市テクノステージ3-9-5
創業 / 昭和26年9月
設立 / 昭和32年3月
資本金 / 6,600万円
従業員 / 49名（平成21年1月現在）
TEL / 0725-51-2251
FAX / 0725-51-2356

ISO 9001

<http://www.sakamotozoki.co.jp/>

